

2020年度「まちづくり・組合員活動交流のつどい」を開催しました！

東京のまちづくり活動トピックス

地域生協と医療生協の役職員が実行委員として、協働しながら準備をすすめてきた「まちづくり・組合員活動交流のつどい」。東京の生協全体でまちづくりを考え、実践していくための企画として、昨年の中止を乗り越え、今年はオンラインで開催しました！

コロナをのりこえて「知り合っ、つながっ、安心のまちづくりをすすめよう！」

開催日：2021年3月15日(月)14時～16時
形式：Zoomによるオンライン開催
参加人数・生協：153名 11生協

基調学習講演

森田 眞希さん

(NPO法人地域の寄り合い所 また明日 代表)



新しい時代の新しい共生のカたち「地域の寄り合い所 また明日」

「地域の寄り合い所 また明日」とは 共通点は同じ地域に住む人たち



2006年に、森田さんご夫婦が東京都小金井市にあるアパートの1階5世帯分の壁を取り払ってひとつの空間にして作った共生スペース。地域への開放スペース『寄り合い所』、認知症専門デイサービス、認可外保育、認可保育の機能を併せ持つ施設の4つの機能があり、お年寄り、乳幼児、児童、学生、大人がみんな一緒に、普段の日常生活をおくることができる。



「また明日」の理念

年齢、性別、障がいの有無、国籍の違いを超えて、繋がりあう、支えあう

みんなが頼ってくれることが嬉しい！ お世話される側からお世話する側に まだ生きていいのかな、と思えることが嬉しい！

認知症でもお年寄りは乳幼児のお世話をし、乳幼児も歩けるようになるとお年寄りのお世話を。支え合いが自然と生まれ、世代を超えて友情も芽生える。困ったときは、みんなで知恵を出し合う。生きる喜びや誰かのお役にたてる幸せがここにある。多様であることで幸せや喜びも重層的になっていく。



無限に広がる地域のつながり

商店街の人達と、行政の各機関と、農家と、学校と、地域と

工務店×電気店×瓦屋×葬儀屋×大工×設計士×農家×福祉職×居酒屋・・・＝「木工チャレンジ」
環境NPO×また明日×地域住民・・・＝「また明日発電所」

お話での印象的なキーワード

地域を見守っているようで、実は私たちも地域に見守られている

行政だけでなく
私たちの心の中にある
縦割りの壁を壊す

人と関わる時に
何が大事で、何が核と
なるのかというところ
愛！

自分の中の垣根をなくそう！

もっと知りたい方は

2019年12月発売
大田美由紀(著)
藤田浩司(写真)



6つの生協による「まちづくり」や「組合員活動」の事例報告



城南保健生協 詐欺にあった生活困窮の親子の力に

生協本部にかかってきた1本の電話から、弁護士、よろず相談担当者、区議会議員、子ども食堂に繋がりました。今も、解決に向けて進めています。



東都生協 「未来につなぐ募金」でおとな食堂

世田谷区と杉並区の2ヶ所で「こども食堂」をスタート。その後さんぽんすぎセンターで「おとな食堂」も始めてからコロナに。今は食料配付で頑張ってます。



東京西部保健生協 新しい支部をつくりました！

診療所にかかる事も支部活動に参加することもほとんどできない地域に拠点となる「松下さんち」を作ったことで、組合員が増え、新支部ができました。



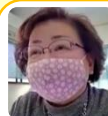
北多摩中央医療生協 342人の組合員に電話かけ

電話かけを通して組合員の生活実態を把握することができました。成功のカギは運営委員の団結をつくることでした。



コープみらい 医療生協と共催「こども保健学校」

「練馬まちづくり」で東京保健生協さんから一緒にやってみないか、とのお誘いを受け、5年前から一緒に開催しています。



東京ほくと医療生協 「みんなのスマホ教室」

コロナ禍でも、医療生協組合員の活動情報や健康情報、東京ほくからのお知らせの共有や、つながりを作るために、みんなでLINEを覚えました。

【アンケートの感想より】

- 当たり前だと思っていた「子どもは保育園、高齢者はデイ」の概念から、「地域のみんなが幸せ」と思える理想の形を見ることができ、目から鱗であると同時に、森田さん方式の取り組みが広がったら地域がどんどん笑顔であふれるように思いました。子どもが手をとり引っ張っていく大人を選んでいるというお話に笑みがこぼれました。
- 新しいことを立ち上げる時、1つの組織では難しいことも、つながることで実現することができるのだということを報告で知ることができました。コロナ禍で何ができるかということを探った経過を聞いて、もっとできることがあるという希望を持つことができました。